

Photoshop 用データ入稿解説書

▼ データ作成は、黒 1 色で作成します!!

画像を含み、データはすべて黒 1 色 (グレースケール) で、インクの色ごとに版分けして【1 色 = 1 ファイル】で作成して下さい。版画のような感じです。(赤インクだから赤でデータを作成すると印刷できませんので、ご注意下さい)

また、画面上の濃淡がそのまま印刷濃度に反映されます。「カラー編集」でグレースケールに自動変換したものは正しく印刷されません。例のように濃淡を調整して下さい。

例) 希望色 100% → ブラック 100%, 希望色 50% → ブラック 50%。

▼ 画像の背景は、完全な真っ白に!!

スキャンで取り込んだデータの背景部分には、元原稿の紙自体の色が残っています。そのまま印刷すると薄くムラのようにインクが乗ってしまいます。

背景部分は、必ず真っ白に補正する必要がありますので、ご注意下さい。

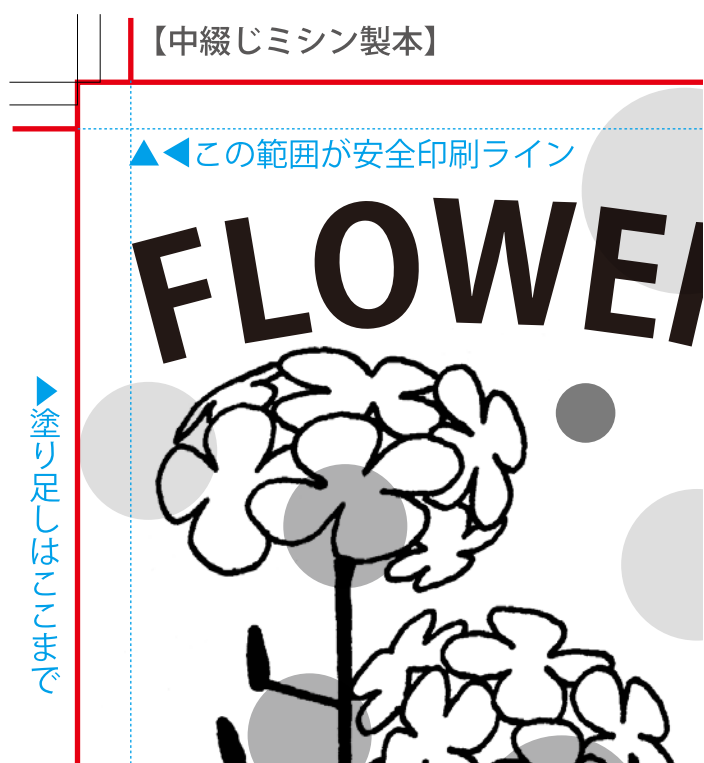
▼ 印刷データには、仕上り見本を必ず添付!!

両面・多色印刷の場合、完成形の仕上りイメージが分かるカラーをデータ、ご用意下さい。仕上り見本の無い場合、イメージと異なる仕上がりになることがあります。

▼ テンプレートの見方

テンプレートは仕上がりサイズのトンボとガイドラインが入っています。

ガイドラインにはそれぞれ意味がありますので確認してからデータを配置してください。



■ 塗り足し線と文字の安全圏

製本は断ち落としでの仕上がりになりますので、端まで印刷範囲を付ける場合は塗り足しを付けてデータを作成してください。

塗り足しとは仕上がり線より+3mm余分にデータを作成してズレで余白が出ないようにすることです。

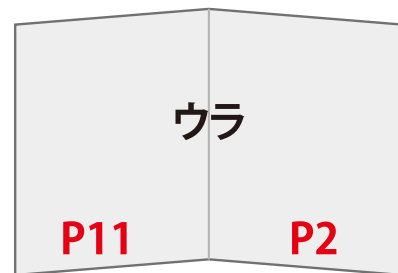
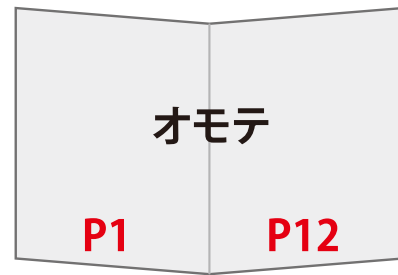
また反対にズレによって文字や必要な情報などが切れてしまう事もあるので、内側の線 (断裁安全圏) より中に納めて配置をしないと文字切れを防ぐことができます。

■ 製本原稿のページ割について

中綴じ製本は1原稿につき、両面で4P分のデータ配置となる為、ページ割をした状態での入稿データが必要です。

ページ割とは、複数の原稿を束ねた時にページが順番通りになるように割り振る事を指します。

- ▶ 例として右図は中綴じ製本で本文3枚(12P)の場合で本文1枚目のページ割です。
ページ配置は本の開く向きや綴じ方で変わるのであくまで一例です。
レトロ印刷はオモテ面を外側で見ます。



※入稿データを作成する前に紙を使ってページ割を確認してからデータを作成するとイメージしやすくなります。

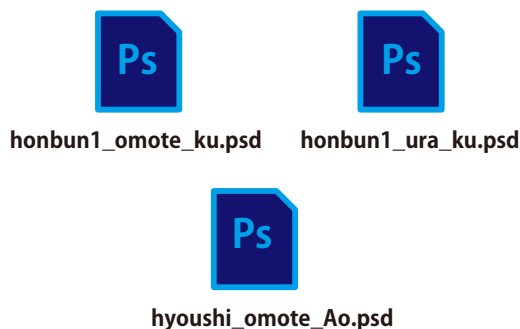
■ データの保存は1版1ファイルで！

印刷用のデータは製版データの数に分けて保存してください。

例えば表紙片面2色(2/0) + 本文両面2色(2/2) 本文3枚12Pの原稿作成の場合であれば、全ての入稿原稿の数は14ファイル必要となります。

それぞれのファイル名に原稿の種類(表紙・本文)、色数の指示が必要となります。

以下に一例を参考にして作成してください。



フォルダにまとめて
圧縮する

(表紙 + 本文データ全原稿)



※複数件の入稿の場合は必ずフォルダ分けで入稿してください。

▼ファイルの保存は仕様の記入を必ずデータ名に入れて保存してください。

『hyoushi_omote_Ao.psd』⇒ 表紙_オモテ面_青インク

『honbun1_ura_Ku.psd』⇒ 本文1枚目_裏面_黒インク

※インク名の略称は次のページのインク一覧を参考にしてください。

インク一覧

インクカラーは入稿データに使用しないでください。
※見本データや指示用のデータです。



Gold 金

金インク (ツヤブリ加工利用不可)

- 金インクが使用できるのはオモテ面・ウラ面どちらか一面のみとなります。
- インクの性質上他のインクとは混色しにくく、金インクが一番上にのります。
- ツヤブリ加工・金インク+ツヤブリ加工の仕様では金インクが使えません。
- 金インクは他のインクと別途印刷価格が異なります。HPでご確認ください。

Gt 限定 インク

限定インク

限定インクは一定期間ごとに色が変わる特別インクです。
ご利用の際はご注意のうえでご利用ください。
インクの色味につきましては、レトロ印刷のHPにて
ご確認ください。